

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671900284
法人名	医療法人内田会
事業所名	グループホーム「虹」
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1664番地2 (電 話) 0883-76-4655

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月21日

## 【情報提供票より】(平成19年 4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 9人,非常勤 5人,常勤換算 すぎち4.95人 あい5.73人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	日常生活用品費1日200円、電気器具使用料1日100円、その他実費
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

### (4) 利用者の概要( 4月 1日現在)

利用者人数	16名	男性	1 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古い町並みの一角に位置し、周囲の民家にとけ込んだたたずまいは、玄関も常にオープンにして、誰でもが気軽に訪問しやすい雰囲気となっている。庭先の木々は適度にプライバシーを守り、毎日の散歩コースは交通量も少なく、動物を飼っている所や、買い物を楽しめるお店もあり良い近所づきあいが出来ている。近所の人達、家族の他、小学生の訪問も多く、ホームが実施している学童保育は利用者の感性を高め、介護者や利用者同士のいたわりの気持ちや、気遣いの心も生まれている。利用者の得意とするものが役割作りや生き甲斐づくりになる様、介護者はさりげなくサポートしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の契約書の権利・義務の記載について、契約書に利用者及びその家族の権利・義務が明確に記載され、わかりやすい内容となっている。また申し送りや情報伝達の確認印についても、確認印が押され情報の伝達が確実になされている。火災や地震、水害の災害時の職員及び消防署等関係機関の連絡網の作成が望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が目を通し、話し合いの上作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には法人代表者と管理者、家族の代表者、地域の代表者が委員となり立ち上げたばかりであり、その後の開催には至ってない。今後の開催にあたり、運営推進会議の意義や役割を再度確認いただき、メンバー及び内容についてよく検討を重ねホームの協力者として積極的な参加と意見がいただける働きかけが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	訪問された時や家族会の時等、機会あるたびにいつでも言ってもらえる様に伝えており、ちょっとした事でも色々な話しや相談をされる事が多くなっている。それを職員間で話し合いながら即実行するよう心がけている。また、利用者の健康や病気については母体に医師がおり、常時訪問してくれているので、利用者、家族には安心していただいている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	普段の暮らしの中では、散歩や買い物のほか小学生の定期的な訪問や地区長が運営委員に加わっているため、地域の人達やボランティアの訪問も多く、利用者の外出時には声をかけてもらったり見守りもしてくれている。地区のお祭りや一斉清掃等にも積極的に出かけ、地域と双方向の交流など良い関係が築かれている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念の下、利用者が安心して生活できるホーム作りと、地域住民との関わりや付き合いを大切にする事が謳われ、地域密着型サービスとしての基本理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時の他、管理者と職員は常に理念について話し合い、確認しあい、実践にむけ取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事等には沢山のボランティアが参加され交流も多い。また近くの小学校が毎月訪問してくれる他、毎日、地域の子供が遊びに来ている。利用者の方は子ども達の来るのを心待ちにしている。子ども達も自然とホームにとけ込み、家庭の祖父母達の中での様に宿題や話しをしており、利用者もそれを自然に受け入れている。地域のお祭りや一斉清掃にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームの職員は自己評価、外部評価をホームの更なる質の向上の機会ととらえ、外部評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。自己評価時には全職員が目を通し話し合いの上作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を立ち上げ法人代表と管理者及び家族代表、地区長等が委員となり会議が行われ、ホームのサービスの向上に活かしているが、定期的な開催には至っていない。行政職員、地域包括支援センター職員の参加がされていない。	○	運営推進会議として立ち上げたばかりでその後の開催には至っていない。今後の開催にあたり、メンバー及び内容についてよく検討を重ね、運営推進会議の意義や役割等を再度確認され、積極的な参加と意見がもらえる工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とのつながりは少ないが地域包括支援センターとのつながりの中でサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	地域包括支援センターや広域連合等と連携し、市に対して運営していく上の課題をなげかける等積極的な関係づくりの工夫が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回の家族会の他、家族の訪問は比較的に多く、その時々利用者の暮らしぶりや健康状態の報告と会計簿等も確認してもらっている。また、職員の異動等はホーム便りを通じて早い機会に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問された時に介護者自身が利用者・家族からちょっとした事でも気づいた事は何でも言ってもらえる様話しており、家族の方も気軽に気づきを言ってくれる。それらを前向きにとらえ運営に反映している。また、苦情・質問箱の設置や行政等他の相談所のある事も繰り返し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の関係に配慮し、異動は極力しないようにしている。馴染んだ関係を変化するときはその影響を最小限に留める配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は1ヶ月に1回行い、なるべく全員が出席出来るように配慮している。また、資格取得に積極的に取り組み、職員同士は日々の体験の中、教え、教えられるの良い関係の中で仕事をしている。研修を受講した報告書の作成がされていない。	○	研修会の機会は多く、出来るだけ多く参加出来る様配慮されているが、出席出来なかった者も研修内容が共有出来る報告書の作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、運営者は地域の同業者との交流も多く、情報の交換によりサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に見学に来たり、家族と相談しながら利用者が馴れるまでは少しコミュニケーションを控えたり、家族の声が聞けるよう電話をする等、見守りをしながら支援していく工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、それを日々の生活の中で使用し、役割作りと生き甲斐づくりに繋げている。生活の技や文化の大事さを教えてもらったり、利用者からいたわりの言葉や励ましてもらう事もあり、支援する側、支援される側の関係でなく、自分の家族同様に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者との対話を通じ、その希望・意向の把握に努め、希望する場合は関連医療機関以外への通院も行う等、利用者の希望は全面的にかなえる様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、気づき、意見・要望・アイデア等を反映した介護計画を作成している。介護計画について家族に説明しているが同意のサインがなかった。	○	介護計画を見て内容に同意したことのわかるサインをとられたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回定期的に見直しを行っている他、利用者の状態の変化に応じて適宜見直しを行う等、実状に即した、また変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しが行われている。見直した介護計画にも家族の同意のサインがなかった。	○	見直した介護計画にも、家族の同意のサインをとられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の中に看護師を配置し、専門的な立場での支援がすぐ出来る態勢づくりとなっている。また、利用者、家族の要望に応じて受診の送迎なども支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医と常に連携をとり、いつでも受診出来る態勢となっている。受診や通院は基本的には家族同行となっているが、不可能な時には職員が代行しており、利用契約時にその旨の説明と同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合にそなえて家族、医師、職員間の相談や話し合いは、利用者の日頃の状況を見ながら行っている。病気についても本人・家族共に、法人母体の医師やかかりつけ医と常に相談をしており、介護者の中に看護師を配置して終末期の対応支援がされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々の関わりの中で入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応と、記録等個人情報の漏洩防止と秘密保持について、全ての職員が理解し徹底が図られる様、機会あるごとに話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、利用者一人ひとりの生活ペースを尊重し、出来るだけ希望にそった生活出来る様な支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は調理・盛りつけ・片付け等を利用者がそれぞれ自分の役目として行える様、見守りとさりげない支援を行っている。利用者同士は話しをしながら食事を楽しんでおり、隣や前に座っている方への気遣いをしている場面もみられ、温かい雰囲気の中で利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望すればいつでも入れる体制にしている。入浴支援は同性が行っており、重度の場合は清拭や足浴なども行っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や好み、習慣を把握しそれぞれの得意とする分野で活躍できる様さりげなく支援している。洗濯ものたみ、食事の準備や後片付け、おやつ作りの他新聞や広告で作ったゴミ箱、ゴミ入れ等は毎日の生活の中で使っており、少なくなったら利用者自身で補充する等、役割づくり、生き甲斐作りへのさりげない支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物、車イスでの外出など日常的に出かけており、近所と顔なじみの関係が出来ている。また、お花見や季節ごとの地域の行事にもなるべく多く出かけ、出来るだけ多く戸外に出かける工夫をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、安全面に配慮しながら自由な暮らしができるような支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難方法、連絡方法等を日頃から検討し常に話し合われている。また、避難訓練等も年2回行われ近隣の協力も得られる様、日頃からの交流を大切にしている。緊急の場合の職員及び関係機関の連絡網と地震、水害時等のマニュアルの整備や訓練が望まれる。	○	緊急の場合でも一目瞭然でわかる職員及び関係機関の連絡網の作成と、地震や水害時等のマニュアルの整備や訓練に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士が季節の旬の物を使って1週間ごとに献立表を作成し、利用者と一緒に季節感あふれた食事作りをしている。利用者ごとに主食・副食・水分の量がチェック表に記録され、おおまかな栄養摂取量と水分量により健康管理につなげている。水分は各居室に置かれいつでも飲める様に配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾り付けや、適度な温度と湿度、換気扇の使用がこまめにされ、においのこもらないさわやかさのある配慮がなされている。また壁には先月の七夕まつりや誕生会の写真も貼られ、利用者同士で話しをしたり、大きな笑い声も聞こえ、暖かく居心地良く過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には各自持ち込まれたテレビが有りいつでも好きな番組が見られる様配慮されており、家族や友人の訪問時には居室でゆっくり話ができる様になっている。また居室には孫や家族の写真、利用者の誕生日の写真、自分で作った塗り絵の花等が思い思いに貼っており、仏壇にはきちっとお花も飾られ、それぞれの生活歴や習慣に配慮した居室づくりとなっている。		